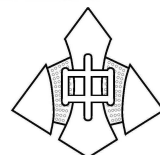


手をたずさえて

“小原田PRIDE”～自信と誇り

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和4年3月11日(金)発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

卒業おめでとうございます

名前は祈り

毛利 武

名前はその人のためだけに
用意された美しい祈り
若き日の父母(ちちはは)が
子に込めた願い

幼きころ 毎日 毎日
数えきれないほどの
美しい祈りを 授かった

祈りは 身体の一部に変わり
その人となった

だから 心を込めて 呼びかけたい
美しい祈りを



この世に存在するものには名前があります。名前があるのは、その存在を求められているからです。中でも人の名前は特別な言葉です。自分のためだけに用意され、一生のあいだ名乗り、呼び続けられる言葉です。私たちは、幼いころ、毎日数え切れないほどたくさんのお名前を呼ばれて育ってきたはず。親は、あまたの候補から、たった一つ、「幸せな人生をおくってほしい」という願いを込めて名を決めます。我々には、それぞれに幸せを祈った名前がつけられているのです。

先ほど、私も美しい祈りであるきみたちの名前を呼ばせてもらいました。

きみたちのお父さん、お母さん、家族の方も、きっと心の中で、「〇〇、おめでとう」と、君たちの名前を呼びかけたに違いありません。心を込めて、美しい祈りとして…。

卒業生の皆さん、どうか、自分の名前の意味をもう一度よくかみしめ、その名前に込められた美しい祈りを感じ取ってください。

そして、自分の名前を大切にすること、自分自身を大切にすることに繋がります。

さらに、自分が大切だと知った時、他の人を尊重しなければならないということが分かるはずです。自分を理解し、自分を愛しいと思ったら、相手に対してもそうだと想像力がつくはずです。自分を大切にすることは、他の人も大切にできるということです。そして、美しい祈りが込められたきみたちの名前を授けてくれた、お父さん、お母さん、家族の方々への感謝の気持ちを忘れないでください。一番近くににいる人から、感謝の気持ちを持てる人間になってほしいと思います。

さて、卒業生の自慢を三つ、言います。

一つ目は、思いやりのあるやさしい心根を持った生徒たちであるということ。困っている人がいれば自然な形で手をさしのべることができます。縦割りの活動が少ない中、本校は1、2、3年の仲が良いです。小原田中全体としての和があります。これも、最上級生のきみたちの力が大きかったということです。

二つ目は、生徒会を軸に学校行事に結束して力を発揮したこと。球技大会でのクラス三つどもえの白熱した戦い、友垣祭への熱い想い、そして、きみたちの手で見事につくり上げた友垣祭など。

三つ目は、きみたちが「打てば響く」生徒たちであるということ。言われたことが心の中にスーッと浸みしていく。物事を素直に受け止め、行動に移せる力は本当にすばらしかった。

こうした自慢を、きみたちは膨らませ、しっかりと次に繋いでくれました。



今週火曜日に各クラスで実施した《いのちの授業》を思い出してください。

余命1年という宣告を受けながらも、6年間という月日を生き抜いたの加藤秋雪君。

「人の幸せは、命の長さではない」という言葉に支えられていた秋雪くんのお母さんは、このようなことを言っていました。

「ごはんを食べる、トイレに行く、おこる、泣く、笑う、眠るなど…生きている一つ一つの行為、行動を“幸せのかけら”として、それらを握りしめながら、常に全力疾走していた秋雪くんの命が『精一杯』を教えてくれた。かかえきれないほどの幸せを残してくれた。そして、きっと私が感じた幸せと同じくらいの幸せな気持ちで、短い人生を謳歌したと信じている。」と。

当たり前の日常をなんとなく生きている自分たちに、頭では理解しているつもりでもなかなか実感することができなかった、一日一日がかけがえのない日々で、今すべきことを精一杯やるということの大切さや自分が家族の深い愛に支えられているということ、そして、人は誰もが幸せになるために生まれてきたということに気付かせてくれました。



人はみな、だれもが通ったことのない自分がはじめて通る道を一生かかってあるく。その道すがら、美しい祈りを授けられた自分を信じ、様々な人との出逢いを大切にしながら、自分の夢を、とことんリアルに描き続け、幸せを掴みとってください。

101名の卒業生のきみたちに出会えたこと、本当にうれしく思います。そして、この出会いに感謝します。本当にありがとう。

～ 令和3年度第61回卒業証書授与式 校長式辞より ～

保護者の皆様へ

長きにわたるご協力とご支援に感謝申し上げます

お子様のご卒業おめでとうございます。101名の卒業生たちは、この3年間で大きく成長しました。卒業生の誕生から今日まで、喜びや苦しみを共にして見守り続けてこれら保護者の皆様にご心よりお祝い申し上げます。

ほぼ2年間は新型コロナウイルスによって、修学旅行の縮小での実施など、様々な制限を受けた中学校生活でした。しかしながら、昨年度卒業の先輩達に比すれば、中体連大会は実施できましたし、友垣祭もほぼ例年どおりの内容で開催できました。その中で、卒業生達は小原田中を支え、リードし、活気づけてくれました。本当に頼もしい存在でした。

《別れが、出会えたことの幸せや喜びに気づかせてくれる》

これからも、優しさと厳しさの中で我が子を信頼し、心の絆をしっかりと結んでいただくよう、お願いいたします。

そして、これまで長きにわたり、PTA活動や部活動等でのご支援、さらには新型コロナウイルスへの対応や感染症対策等、本校の教育活動に寄せていただきましたご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

